

糸魚川市筒石の漁村集落の研究

集落形成の研究とリノベーションのデザイン提案

A2201509 加藤 佳菜

研究の背景

筒石は、新潟県糸魚川市旧能町にある漁村集落で、江戸時代から漁村としての歴史があり、日本海と山に挟まれた自然に囲まれた土地である。斜面に集落を形成し、密集しているため、集落の中を車で通ることは出来ない。筒石の住宅は、狭い土地に建てるため、3階建てが多い。また、住宅同士が密接しているため、景観は迷路のような集落である等の特徴がある。本研究では、筒石の集落の形成を研究し、特徴的な景観と住宅を後世に残していくための住宅のエレベーション作成とリノベーションのデザイン提案を行う。

研究の目的

町史などの文献調査やヒアリング調査、実測調査等の現地調査を行い、集落の形成等を解明する。その実測調査結果と住宅地図、現地で撮影した写真等をもとに住宅の外観等を分析し、エレベーション図面を作成する。また、現在の筒石の住宅を、文献調査やヒアリング調査、住宅地図を参考にかつての筒石の住宅にリノベーションし、筒石の住宅の特徴だけではなく、文化等も含め、地域外の人に認識してもらうための施設を提案することを目的とする。

研究のプロセス



- 町史や他大学の民俗学調査報告書での文献調査
- 現地視察 7/16～17、8/28
- ヒアリング 9/23、10/22～23
- 撮影・実測調査 9/26～27、10/22～23、11/4



成果品(完成作品)

○エレベーション

筒石の特徴的な景観を記録するため、住宅の間口の实測調査と、エレベーション作成に必要な外観の撮影を行った。調査結果と写真をもとに、筒石の1区・2区の区道に面する住宅の間口を一軒一軒図面に起こし、筒石の景観を記録することが出来た。

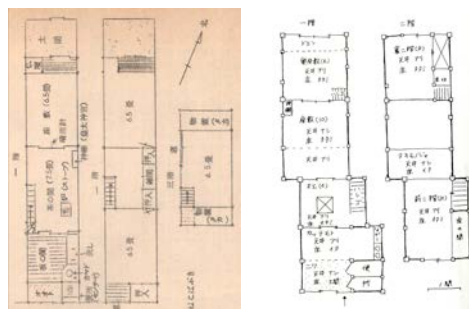
エレベーション図面を作成するにあたり、写真等を分析したところ、ほとんどの住宅で地下に収納(倉庫)を設けるために玄関を高い位置に、或いは、玄関から入ったところの内部で床を高くしていることが窓の位置等で明らかとなった。



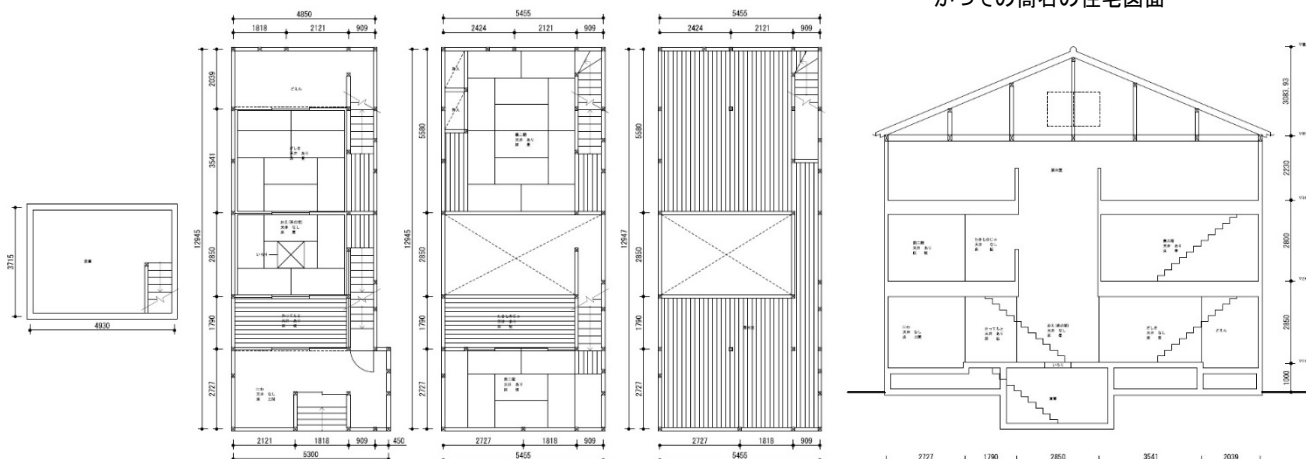


○リノベーション

文献調査やヒアリングから、かつての筒石の住宅は2・3階建て、囲炉裏があり煙抜けのための吹抜があった。住宅の奥行きが長いので入口が前後にある等が分かった。能生町には山間部の民俗資料館はあるが、海岸部の民俗資料館は存在していないことから、実存する住宅を利用し、かつての筒石の住宅の再現と、筒石の生活文化等を収蔵した資料館のデザイン提案を行った。



かつての筒石の住宅図面



リノベーション平面図

リノベーション断面図

考察

3階建ての住宅が密集しており、中には隣家と壁を共有している住宅がある等の特徴的な地域である筒石だが、研究前は地元の私からすると当たり前のもので、珍しいものではないと感じていた。しかし、調査を進めるにつれ、筒石の景観や住宅が貴重なものであることが分かった。能生町で生活している人の中には研究前の私と同じように感じている人は大勢いることだろう。今回の成果物の一つである、資料館の提案によって、地域外の人に筒石の魅力や特徴を認識してもらうことが出来るのではないかと感じた。

現在、筒石では空き家が増え、過疎化が進んでいる。もし、町の人が筒石の魅力を確認し、町の外に発信することが出来れば、この筒石をまちづくり等で活用しようとする人も出てくるだろう。本研究を通して、町の魅力や特徴を後世まで残していくために、まずは自分たちが生活している町のことを理解する必要があると感じた。